

各位

日本農産工業株式会社

2012年4～6月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2012年4～6月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2012年1～3月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約1,300円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料(飼料穀物)

シカゴ定期とうもろこし相場は、堅調な米国内のエタノール生産と南米産穀物の生産量見通しの下方修正により上昇基調となり、直近ではおおむね620～670セント/ブッシェルの範囲で推移しています。今後は米国産とうもろこしの作付動向によって相場が影響を受けます。現在の大豆及びとうもろこし相場水準では、米国農家にとってとうもろこしが採算上有利であると考えられることから、今季のとうもろこし作付面積は史上最高となるとの見方が有力ですが、堅調なエタノール生産需要が相場を下支えするものと推測されます。

2. 副原料(植物蛋白原料)

南米産大豆の生産量減少が見込まれることにより、シカゴ定期大豆粕相場は大きく上昇しています。年明けの310ドル/ショートトン水準に対して、直近では360ドル/ショートトン水準と約50ドルの上昇となっています。

3. 海上運賃

米国ガルフ・日本間パナマックス級本船の海上運賃は50ドル台前半水準となっています。大型ばら積み貨物船の傭船料金は値下がりしているものの、一方で燃料価格が高止まりしていることから、海上運賃相場の下落幅は小幅となっています。

4. 外国為替

直近の外国為替市場でのドル・円相場は、1ドル=80～82円で推移しています。日本の経常収支悪化と日銀による金融緩和実施の一方で、米国の景気回復に対する期待感からドル高・円安方向に動きやすい相場展開になっています。

(お問合せ先) 日本農産工業株式会社 畜産飼料部 馬本・松本 (TEL 045-224-3704)